

教員詳細情報

九州看護福祉大学

氏名	竹中 健
連絡先メールアドレス	ken@kyushu-ns.ac.jp
役職・職名	図書館長 / (大学院) 精神保健学専攻長・教授
所属	看護福祉学部 社会福祉学科
略歴	<p>[学歴]</p> <p>東京外国語大学 欧米第一課程 ドイツ語専攻卒業 北海道大学大学院 文学研究科 行動科学専攻 修士課程修了 北海道大学大学院 文学研究科 人間システム科学専攻 博士課程修了</p> <p>[職歴]</p> <p>北海道大学 文学研究科 専門研究員 広島国際学院大学 情報文化学部 現代社会学科 専任講師 九州看護福祉大学 看護福祉学部 社会福祉学科 教授 九州看護福祉大学大学院 看護福祉学研究科 精神保健学専攻 教授</p>
取得学位	博士（文学）（北海道大学）
担当科目	<p>【学部】</p> <p>保健医療と福祉 社会福祉調査の基礎 社会学Ⅰ・Ⅱ ドイツ語Ⅰ・Ⅱ 社会福祉特別演習Ⅰ・Ⅱ（ゼミナール） 卒業研究論文</p> <p>【大学院】</p> <p>現代社会病理論 質的研究方法論 社会精神保健学特論 社会精神保健学演習 社会精神保健学研究</p>
専門分野	福祉社会学・社会福祉論・医療社会学
所属学会	<p>ISA (International Sociological Association) BSA (British Sociological Association) NCVO (National Council for Voluntary Organisations) VSSN (Voluntary Sector Studies Network) EASN (East Asian Sociological Network) EASA (East Asian Sociological Association)</p>

	<p>日本社会福祉学会 日本社会学会 日本保健医療社会学会 日本社会学理論学会 関東社会学会 北海道社会学会 東北社会学会</p>
<p>現在の研究テーマ</p>	<p>1. ボランティア行為の定着および展開のための日独英加比較研究 2. 医療と福祉のボランティア：病める人・死にゆく人と寄り添う人の社会学 Sociology of the Better Dying 3. 介護の社会化：介護者および被介護者の意味世界と生活世界 4. ジェンダー・マイノリティとジェンダー・マジョリティ：語りの交差</p>
<p>教育研究業績 (著書・学術論文等)</p> <p>教育研究業績 (著書・学術論文等)</p>	<p>(著書)</p> <p>1. 「ボランティア組織の独立性・自律性と継続可能性の考察」(単著) 2011年 北海道大学(博士論文)</p> <p>2. 「マイノリティのアイデンティティと他者」2011年, 田村・細谷編著『大学生と語る性——インタビューから浮かび上がる現代セクシュアリティ』, 晃洋書房, [全文217頁中、担当：第Ⅱ部「大学生の語りを受けて」195頁-217頁]</p> <p>3. 「なぜスポーツクラブに通うのか——不健康というラベルに抗う人びとの調査から」2012年, 井上芳保編著『健康不安と過剰医療の時代』, 長崎出版, [全文300頁中、担当：第8章：265頁-300頁]</p> <p>4. 『ボランティアへのまなざし——病院ボランティア組織の展開可能性』(単著) 2013年, 晃洋書房</p> <p>5. 「政治・社会運動」2014年, 櫻井他編著『アンビシャス 社会学』北海道大学出版会[全文300頁中担当：第5章「政治・社会運動」79頁-100頁]</p> <p>6. 「人生の最終段階とグリーフケア——最期まで生きることを支える支援のあり方」2022年, 竹中健・横山聖美共著, 櫻井義秀編著『ウェルビーイングの社会学』北海道大学出版会, 253頁-270頁</p> <p>7. 「医療——労働とボランティアの境界」2023年, 李永淑編著『モヤモヤのボランティア学——私・他者・社会の交差点に立つアクティブラーニング』, 昭和堂, pp.215頁-229頁</p> <p>(学術論文)</p> <p>1 「従属のなかの自律——病院ボランティアの対抗」(単著) 2006年, 『現代社会学研究』19号, 北海道社会学会 [査読有]</p> <p>2 「ボランティアというハビトウス——札幌市の病院ボランティアの事例から」(単著) 2006年, 『西日本社会学会年報』5号, 西日本社会学会 [査読有]</p> <p>3 「病院ボランティア組織の展開可能性」(単著) 2010年, 『現代社会学研究』23号, 北海道社会学会 [査読有]</p>

	<p>4 “Why Japan’s Hospital Volunteer Program Has Failed: Civil Society or Mobilization?” (単著) 2014年, "Bulletin of Hiroshima Kokusai Gakuin University" Vol47 [査読有]</p> <p>5 「ケアワークとボランティア：ケアにかかわる領域はどのように専門職化するのか?」(単著) 2015年, 『広島国際学院大学研究報告』第47巻 [査読有]</p> <p>6 “Why Would She Act as a Hospice Volunteer?: Gassing at a Resource of Social Capital” 2020.6 Kyushu Journal of Social Work</p> <p>7 “Companioning Through Loss: Re-Imagining Bereavement Support for Canadian Communities”, 2026,3, Ken Takenaka, Maria Giannotti, The Journal of Kyushu University of Nursing and Social Welfare, Vol.26 No.1 (共著)</p> <p>(報告書等)</p> <p>1 「野幌のお神楽と生活——なぜ野幌の人びとは太々神楽を残そうとするのか」, 2002年, 中澤・高橋編著『野幌とはどのような場所か——その生活史と地区形成』(分担執筆: pp.49-53), 札幌学院大学社会情報学部</p> <p>2 「病院ボランティアと生涯学習——動員か? 自発か? 導かれたボランティアの行方」, 2003年, 小林甫研究代表, 『変革期における《ライフロング・ラーニング》の社会的意味と社会的役割』平成12～14年度科学研究費補助金基盤研究(A)(1)研究成果報告書</p> <p>3 『大麻地区商店街の形成と課題』, 2006年, 石井・工藤・竹中編(分担執筆), 札幌学院大学社会情報学部</p> <p>4 「井仁の歴史とくらし: 地域のくらしは、誰がどのように守るのか?」, 2015年, 『井仁棚田から眺めると』(分担執筆), 広島国際学院大学 情報文化学部 現代社会学科</p> <p>5 「誰が棚田を守るのか?」, 2016年, 『安芸太田を歩く』(分担執筆), 広島国際学院大学 情報文化学部 現代社会学科</p> <p>6 「棚田のある未来」, 2017年, 『安芸太田を知る』(分担執筆), 広島国際学院大学 情報文化学部 現代社会学科</p> <p>7 書評「井上芳保著『犠牲になる少女たち——子宮頸がんワクチン接種被害者の闇を追う』」, 2018年, 『現代社会学研究』, 北海道社会学会, 37-43頁</p>
社会活動・社会貢献	<p>市立札幌病院 ボランティア (2002年～2014年)</p> <p>東北社会学会 選挙管理委員 (2010年7月～8月)</p> <p>日本保健医療社会学会 査読担当 (2015年～2016年)</p> <p>評議員 (2021年～現在) 国際交流委員 (2017年～現在)</p> <p>日本社会学理論学会 査読担当 (2016年～2017年)</p> <p>日本社会福祉学会 査読担当 (2017年)</p> <p>北海道社会学会 査読担当 (2017年～2018年)</p> <p>菊池市地域福祉計画策定委員会 委員長 (2023年～現在)</p>